

中学校区におけるめざす子ども像
いきいきと学ぶ子の育成のため学力調査等の詳細な分析を行い、学習指導における課題を小中学校で共有することで、「確かな学び」を推進していく。また、それぞれの学年の子どもの発達段階に応じた理解度や学習能力の育成に向けた取り組みの充実に努めていく。そして、基礎基本的な学習内容の定着を確かなものとしていく。自ら学ぶ子どもの育成を小中の連携を深めながらより推進していく。

令和6年度 重点目標
◎学校訓である「自主」「共同」「敬愛」の精神を柱として、一人ひとりの生徒の学力の向上を図り、基本的な生活習慣の確立と自主性を生かした取り組みによる「笑顔 輝く 学校づくり」を目標とする。
■「教科指導の工夫と充実」 ■「生徒指導の充実」 ■「人権教育の推進」 ■「特別支援教育の充実」 ■「防災教育の推進」の5つを今年度の教育重点目標の柱と位置づけて取り組む。

「確かな学び」の現状・・・<R5年度大阪府チャレンジテストの結果より>
【知識・技能】では3年生英語で府平均正答率を 1.3 ポイント上回っている。しかし、その他の4教科においては府平均正答率を下回っている。【思考力、判断力、表現力等】では、3年生の5教科すべての科目で府平均正答率を下回る結果となった。とくに国語では 3.1 ポイント下回ることに課題がみられる。【学びに向かう力・人間性等】では「授業中、思考ツールを使うなどして自分の考えを整理したりまとめる場面がある。」「テレビや新聞、インターネットで社会的な出来事に関するニュースを見ている。」について府平均を上回っている。また、「授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。」といった質問事項において週3回以上との回答が府平均を 34.1 ポイント上回る結果となった。しかしながら、「文章や資料を読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる。」や「難しいことがあっても、あきらめない。」といった質問事項に対して府平均を下回っている。このことから、自分の考えを整理したり友だちと意見を交換する場面においても大事なポイントをまとめることができるような授業展開を設定していく必要がある。また、生徒自らが課題を見つけ、問題解決に向けて取り組める教材を授業で活用する際には最後まであきらめずに課題に向き合えるような目標を設定する。

「豊かな心・健やかな体」の現状
学校における教育活動全体を通じて人権教育を推進していくことが重要であり、生徒個人の感覚として身につくような指導を心がけながら自他の尊重と自尊心を一層高める必要がある。そのためには、教育活動全般にわたり、意図的・計画的な人権教育への取組が必要であると考える。また、特別な教科「道徳」の指導方法の工夫改善を推進していく。なお、重点目標の一つでもある「生徒指導の充実」について、教職員全員で情報の共有を図りながら、生徒一人ひとりに丁寧な指導を心がけていきたい。特に「いじめ」問題については、「学校いじめ防止基本方針」に基づき、学校全体で課題解決に取り組む姿勢を確立することが重要である。部活動については、運動部、文化部問わず、スポーツ庁および文化庁のガイドラインを遵守し、ノークラブデーを確実に実施していく。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認	達成状況 (年度末)				
								自己評価		学校関係者評価		
確かな学び	教科指導	一人ひとりを大切にしたい きめ細やかな授業の実施	★わかりやすく楽しい授業が行われているか。	◆学校教育アンケート ◆CBT調査(教育委員会作成)等 上記のアンケート結果の肯定的回答の割合が 70%以上→A評価 30%~70%→B評価 30%未満→C評価	◆学校教育アンケート ◆CBT調査(教育委員会作成)等	学期末 年度末	A	生徒一人ひとりに対して、目標や課題の設定を行うことができているか検討していく必要がある。また、それぞれの授業で教材や教え方について工夫しているが、タブレットの活用については教科や学年によって使用方法や効果的に活用できているか等、差がある現状がある。	A	生徒86% 保護者66% (76%)	A	
			生徒が真剣に取り組める授業になっているか。				A	生徒90%	A			
			●それぞれの授業において、教材や教え方を工夫しているか。				A	生徒92%	A			
			★生徒一人ひとりに対して基礎的な学習内容の定着を目標とした授業を行っているか。				B	生徒70% 保護者55% (62%)	B			
			タブレットを授業内で効果的に活用しているか。				B	生徒62% 保護者67% (65%)	B			
	キャリア教育	各授業を大切に思い、自己の考えを書いたり、発表したりして主体的に学ぼうとする 生徒の育成	生徒は各授業を大切に思い、取り組んでいるか。				◆学校教育アンケート	A	学年が上がるにつれて、課題に直面した時にタブレットや図書室を活用して調べようとしている生徒が増えるが、多くの生徒がさらに活用することができるような図書室環境の整備やタブレット使用のアドバイスが必要である。	A	生徒89%[CBT]	A
			生徒は課題に直面した時に、タブレットや図書室を活用して調べようとしているか。				◆CBT調査(教育委員会作成)等	B	各学年の発達段階に応じたキャリア教育(進路学習)について、実践はしているが、保護者に向けてさらに情報発信をしていく必要がある。	B	保護者51%	B
			生徒は自分の考えを書いたり、発表したりしているか。				◆CBT調査(教育委員会作成)等	A	生徒80%[CBT]	A		
			生徒は自分で課題を見つけ、解決しようと取り組んでいるか。				◆CBT調査(教育委員会作成)等	A	生徒78%[CBT]	A		
			進路に関する調べ学習や、職場体験学習などを通じ、進路選択時に自己の希望に応じた選択を行えるような支援				◆CBT調査(教育委員会作成)等	B	生徒79%	A		
豊かな心・健やかな体	生活の改善	基本的な生活習慣の確立 に取り組む	生徒は挨拶をすることが習慣となっているか。	70%以上→A評価	◆学校教育アンケート ◆CBT調査(教育委員会作成)等	学期末 年度末	A	地域と合同で避難所開設等の防災訓練に取り組むことで、地域の一員として、防災について深く考えることができるようになってきている。	A	生徒92% 保護者63% (77%)	A	
			学校は家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っているか	30%~70%→B評価			A	保護者79%	A			
			生徒は地域の一員として防災について関心をもっているか。	30%未満→C評価			A	生徒90%	A			
		●学校はいじめのない明るい学校づくりに取り組んでいるか。	◆学校教育アンケート	A			今年度も各学級において、いじめ防止対策基本方針について学習や確認を行っており、いじめのない明るい学校づくりに向けて、学校全体で生徒や保護者が相談しやすい雰囲気づくりを進めている。	A	生徒73% 保護者67% (70%)	A		
		学校は力に頼らない生徒指導・生徒理解を心掛けているか。	◆CBT調査(教育委員会作成)等	A			保護者70%	A				
	学校生活	自主性	生徒会活動等を通じ、自主性の向上を育成	生き方や豊かな心について、考える機会があるか。			◆学校教育アンケート	A	生徒78% 保護者73% (76%)	A		
				生徒が相談しやすいと感じる接し方ができているか			◆CBT調査(教育委員会作成)等	A	生徒70%	A		
				学校や学級は楽しく満足しているか。			◆学校教育アンケート	A	生徒87% 保護者80% (84%)	A		
				生徒会活動に積極的に参加しているか。			◆CBT調査(教育委員会作成)等	A	生徒90% 保護者58% (74%)	A		
				生徒は部活動を通して学ぶことが多いと感じているか。			◆CBT調査(教育委員会作成)等	A	生徒79% 保護者67% (73%)	A		

校長より (年度末) 本年度は地域と協力して防災訓練を実施し、重点目標としている防災教育の推進に取り組むことができました。しかしながら、「生徒一人ひとりに対して基礎的な学習内容の定着を目標とした授業を行っているか。」「タブレットを授業内で効果的に活用しているか。」について、各教科等により差が出る結果となり、課題が見られました。どの教科でも効果的にタブレットを活用し、個別に応じた学びについての指導をより進めていくことを今後のさらなる研究課題としたいと思います。また、昨年度と同様にいじめ防止対策基本方針についての学習に取り組んでおり、学校全体で人権意識の向上とともに「いじめのない学校づくり」の構築に邁進してまいります。

学校関係者評価者から (年度末) 比較的に全体高評価という結果ではありますが、タブレットの効果的な活用については先生方もご苦労されているところだと感じます。また、今の急激な情報化社会の中で、中学生に限らず、今の子どもたちのコミュニケーション能力の育成にはどうすればよいのか、学校・保護者・地域で一体となって考えていく必要があると思います。